

市民ネットワーク まちづくり通信

代表：小西由希子・発行責任者：木村ゆうこ

発行：市民ネットワーク 編集：市民ネットワークちば・中央
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-13-17 TEL/FAX 043-223-7880
URL：http://shimin-network.jp/ E-mail chuo@chibanet.jp

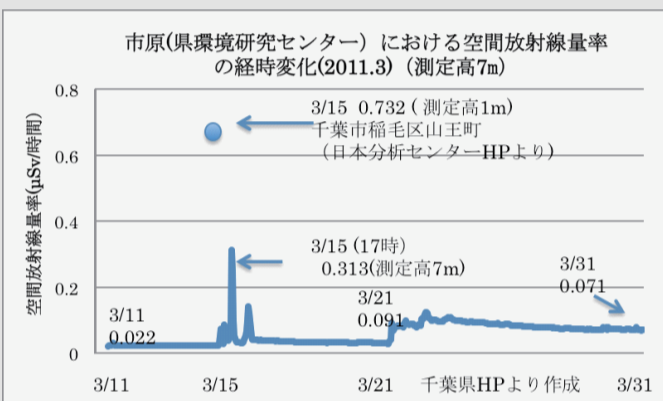
原子力発電に頼らないエネルギー政策の転換を

いまだ収束のめどが立たない原発事故。食品の放射能汚染も深刻です。発電コストは原子力が最も安価とされてきましたが、交付金や核廃棄物の処理費、事故対策費などは含まれていません。放射能の影響はこの先何十年と続き、次世代にも及びます。未来ある子どもたちに大きなツケを残すことは出来ません。

あなたの身近な公園の放射能は？

福島原発の事故以来、私たちは放射能と一緒に暮らすという、想像もしなかった日々を送ることになりました。吸う空気、食べ物、恵みの雨、すべてが3月11日を境に一変してしまいました。

事故発生3月11～31日間の、空間放射線量率（以下、放射線量率）の経時変化を図に示しました。3/15には、稲毛区（日本分析センター）で



0.732 μSv/時間 (1m高) もの値が測定されていましたが、広く市民には公表されていませんでした。このような情報は迅速に市民に知らせることが必要です。また、新聞報道等で公表されている県の値は千葉県環境研究センター（市原市岩崎）における高さ7mにおける測定値であり、3月15日の最高値は0.313 μSv/時間でした（7月25日からは高さ1mでの測定値が公表となる）。このように、放射線量率は地域、測定機器、測定の高さにより異なり、

市議会を傍聴して

中央区ネットの活動に参加して二ヶ月余りの新入りですが、今回初めて市議会の一般質問を傍聴しました。千葉市に移り住んで三十年が経過し、ようやく議会へ足を運んだという怠慢振りを大いに反省しました。

質問の内容は、さすがに今回は震災対策に関するものがほとんどでしたが、私が今一番聞きたいことでもあり、真剣に耳を傾けました。ただ、市長の答弁が全くなかった事と、市役所幹部が原稿通りの答弁に終始し、議論の応酬がなかった事が予想と違い、残念に思いました。そんな中で、湯浅、山田両代理人の質問は内容も豊富で調査も行き届いている為、堂々としていて大変聞きやすかったと思います。また、傍聴席の応援団も市民ネットが一番多く、団結力の強さと、市政に真面目に取り組む姿勢がひしひしと伝わって参りました。

今後についても、我々一市民が議会に眼を光らせていく事は大切で、是非継続したいと強く感じました。(上水 千古・あげみず ちはる)

お知らせ

親子三代千葉踊りを一緒に踊りましょう!
8月21日(日)午後5時集合
市民ネット中央区事務所

再生可能エネルギーによる原子力再生プラン
8月16日(火)13:30～15:30
講師：倉阪秀史さん(千葉大学)
場所：県ネット4階会議室

弁護士による市民法律相談のご案内
(予約制・1回目は無料)
毎月第2土曜日 午後1時～4時
場所：市民ネットワークちば
問合せ：043-201-2551

原発に頼らない社会を実現しよう
9月5日(月)10:00～12:00
場所：美浜文化ホール(音楽ホール)
講師：田中優さん※資料代：200円
問合せ：043-201-2551



各々の地域での測定が必要です。6月6日、千葉市でもようやく測定が行われ、1mの高さで新宿保育所0.13、生実保育所0.09、鶴沢小学校0.15 μSv/時間でした。

「子どもたちが遊ぶ公園は大丈夫なの？」

市民ネットワークではそんな皆さんの要望に応じて、放射線量率を測定し

ました。中央区内各地区で数カ所、高さ1cm,50cm,1mで測定した結果の一部をここに示しました。測定値は0.090～0.149 μSv/時間で、市の測定とほぼ同程度でした。

市民が安心して暮らせるように、市として独自に放射線量率を随時測定して、だれもがわかるように発表していくことが必要です。さらに、食品の放射能汚染による内部被曝も大きな不安となっています。私たちは市に対し、食品の放射能測定体制を早急に整え、結果を速やかに公表していくことを求めます。

市民ネットワークでは今後も測定を続けていきますので、お住まいの地域で放射能の測定を希望なさる方はご連絡ください。詳しい測定結果は『市民ネットワーク千葉県』ホームページをご覧ください。

中央区の公園等の空間放射線量率測定結果 単位：μSv/時間

6/21	青葉の森公園 わんぱく広場(芝)	0.090
7/20	東千葉地区 山部公園(砂)	0.141
7/20	宮崎・白旗地区 菰池公園(砂場)	0.105
7/21	新千葉・汐見丘・春日地区 登戸公園(砂場)	0.113
7/21	椿森地区 椿森公園(中央、土)	0.139

・測定：ハンディサーベイメータ NHE20CY3-131B Y-S (富士電機株式会社)
・測定高1mで10秒ごと10回測定した平均値



殺虫剤・農薬へ市民の目が必要

環境健康学トランスレーター 木村ゆうこ

私たちは、知らず知らずのうちに人体に影響を及ぼす殺虫剤・農薬成分を吸い込んでいます。皆さんの居住するマンションの共有緑地でも、「消毒」と称して、殺虫剤や殺菌剤がまかれていませんか。公園の樹木や植物園、子どもたちが運動するサッカー場等でも、危険な農薬が安易に頻りに使用されています。原因不明の頭痛や下痢、鼻血などは、農薬を吸入したことによるかもしれません。放射能と同様、発達途中で脆弱な胎児や乳幼児は、脳への影響も大きく特段の配慮が必要です。

このような問題意識に基づき、私は約4年前から、千葉市の公共施設等での農薬使用実態調査を行い、市に対し改善を求めて働きかけを行ってきました。また、「千葉市の施設等における農薬・殺虫剤等薬剤の適正使用に係る指針」の策定にも関わってきました。そして、その指針が生かされているかを検証するため、6月に、平成23年度の害虫防除における仕様書(契約書)を開示請求で取り寄せました。本庁や保育所、みどりの協会の街路樹部分については、「剪定などの物理的防除を優先させる」と盛り込まれており、農薬に頼らない方法を第一とするなど、大きく改善されていました。一方、公園管理課などの仕様書は、千葉市の指針や環境省のマニュアルに沿っておらず、その改善は今後の課題です。せっかく有用な指針やマニュアルがあっても、実行されなければ絵に描いた餅です。私たちや未来世代の健康や生態系を守るために、農薬に関する問題意識を持ち、行政の行動を監視していくことが必要です。

違反が多いワンルームマンション建築

～手ぬるい行政指導が原因～

ワンルームマンションが増えてきた。都会では悩みの種、少子高齢化でお年寄りのご夫婦はいずれ土地を売ってしまう。後にできるのはマンションか駐車場、ワンルームマンションの入居者は、ごみ捨てのルールを守らない、違反駐車をする、夜に騒ぐなど、どこの自治体でも問題となっている。東京都の各区では規制強化がはじまった。千葉市は「ワンルームマンション建築指導要綱」はあるが、条例ではないので罰則規定はない。それをいいことに業者の指導要綱違反は目に余るものがある。担当部署は見てみぬふり、完工届けの規定もなく、完工しても調査にもいかない。虚偽申請もみぬけず建築許可を出してしまう、これはある自治会で実際にあった話である。迷惑を受けるのは住民で業者寄りの行政といわれても致し方ない。指導要綱を条例化し、違反を許さない対策をとるべきだ。(露崎 達郎)